



プレスリリース
2025年10月14日

報道関係者各位

女子美術大学創立 125 周年を記念した展覧会をスパイラルガーデンで開催

女子美術大学創立 125 周年記念展 —この世界に生きること—

- ◆会期:
2025年10月29日(水)
～11月3日(月・祝)
- ◆開場時間:
11:00-20:00 *最終日のみ 19:00 まで
- ◆会場:
スパイラルガーデン(スパイラル 1F)
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
- ◆主催:
学校法人女子美術大学
- ◆助成:
アーツカウンシル東京
[東京芸術文化創造発信助成(単年助成)]
芸術創造活動、公益財団法人野村財団



- ◆概要:
女子美術大学は、今から 125 年前の 1900 年に創立しました。その名の通り「芸術による女性の自立」を建学の精神のひとつとしますが、その背景には、当時の女性をめぐるしきたりや社会通念に対する批判的かつ創造的な眼差しを含んでいました。その取り組みは、今なお立ち返るべきひとつの起点となっています。今回の 125 周年記念展を通じて、本学の存立の歴史に意識を傾けることは、今日のジェンダーのあり方はもちろん、翻ってその未来について思考することでもあります。
本学の卒業生によって構成される今回の展示は、ジェンダーをはじめ、わたしたちの生きる社会や歴史、日常の孕むさまざまな問題に対して向き合いつつ、「芸術による女性の自立」を実践的に捉え返すアプローチにつながっています。アートはこれまでもさまざまなメディアを通じて人々の意識を変えてきましたが、本展を通じて、鑑賞者それぞれがさまざまな問題について向き合い、考え、社会を変えていくきっかけとなることを願います。

本展ディレクター: 栗田大輔 + 福土朋子

◆内容・参加者:

女子美術大学出身の現代アーティスト 3 組 4 名の出品作家の展示とともに、本学の卒業生 38 組 39 名の“今”をインタビュー映像と写真で紹介します。

Part 1:

飯山由貴

過去の記録物や人への取材を手がかりに、社会と個人の影響関係について映像やインスタレーションを制作。近年は、市民や研究者、アーティストなどの協力者とともに制作している。近年の主なグループ展に「プラカードのために」(国立国際美術館、2025 年)「地球がまわる音を聴く:パンデミック以降のウェルビーイング」(森美術館、2022 年)「ヨコハマトリエンナーレ 2020『Afterglow - 光の破片をつかまえる』」(横浜美術館、2020 年)など。2011 年女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻卒業。2013 年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了。



《なぜし なりの なづけ》制作風景 2025 年
撮影=宮澤 響(COG WORKS)

サエボーグ

半分人間で、半分玩具。自らの皮膚の延長としてラテックス製のボディスーツを自作し、装着するパフォーマンスを展開する。近年の個展に「黒部市美術館開館 30 周年 サエボーグ Enchanted Animals」(黒部市美術館、2024 年)、グループ展に「Swingers:RISING」(Flinders Street Station、オーストラリア、2025 年)、「Engawa A Season of Contemporary Art from Japan」(グルベンキアン近現代美術館、ポルトガル、2024 年)、「Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 受賞記念展」(東京都現代美術館、2024 年)、公演に「世界演劇祭 2023」(ドイツ、2023 年)など。2006 年女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻卒業。



《I WAS MADE FOR LOVING YOU at the Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 Exhibition》2024 年
撮影=都築響一

繁殖する庭プロジェクト(小宮りさ麻吏奈+鈴木千尋)

小宮りさ麻吏奈と鈴木千尋のユニット。異性愛規範の外側を模索するために、庭作りや映画制作などを行う。上映に「東京ドキュメンタリー映画祭」(新宿ケイズシネマ、2023 年)、個展に「繁殖する庭」(GALLERYTOH、2021 年)など。個人の活動として、小宮は「新しい生殖・繁殖の方法を模索する」をテーマにメディア横断的に活動している。共同プロジェクトに「FAQ?」、漫画作品として『線場のひと』上・下巻(リイド社、2024 年・2025 年)刊行。2015 年女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻卒業。鈴木は 2015 年より絵画造形教室「ちいさなピカソ」スタッフ。2025 年より本学アート・デザイン表現学科非常勤助手。2017 年女子美術大学大学院美術研究科美術専攻博士前期課程洋画研究領域修了。



《繁殖する庭》2023 年
スチル



Part 2: 本学の芸術学部各専攻・表現領域、短期大学部各コースの推薦による卒業生 38 組 39 名

青木 明子	AKIKO AOKI デザイナー	田中 もなみ	中学校主任教諭
あかほり このみ	立体作家 ゲームーションデザイナー	太郎物語 杏優、果音	演劇ユニット
安次嶺 維理亜	デザイナー	千田 マミ	タグチアートコレクション ディレクター
飯嶋 桃代	現代アーティスト	土屋 紘奈	建築家
飯田 玄汀	書家	中村 美穂	木版画家
市川 海里	株式会社セガ フェイブ MD・TOY 開発生産本部 TOY 開発部	中村 萌	美術家
大小島 真木	現代美術家・アートユニット	野村 仁美	Nomât ディレクター
大島 智子	イラストレーター	はらわた ちゅん子	ネオン画アーティスト
小野寺 ずる	お役者、ド腐れ漫画家 脚本・演出家	藤沢 まゆ	染色画家
春日 佳歩	油彩画家	藤野 麻由羅	日本画家
久野 美怜	フォトグラファー フィルムメーカー ディレクター	藤原 宇希子	日本画家
河野 香奈恵	テキスタイル表現、染織作家	HONGAMA	イラストレーター
柴谷 麻以	アートディレクター	三留 舞	ガラス工芸作家
杉田 万智	現代アーティスト	宮本 華子	現代作家 AIR motomoto 運用者
鈴木 みのり	CMF デザイナー	森村 智子	現代アーティスト
せきぐち ひろみ	絵本作家、イラストレーター	山羊蔵	アート作家
瀬古 泰加	デザイナー ギャラリーオーナー	山形 遥	ブランディングデザイナー アートディレクター
高原 真央	建築家、アトリエモタカ主宰	山崎 菜穂子	染色・図案家
		結城 香	ぬいぐるみ商品企画 デザイナー
		余 詩穎	アクションフィギュア原型師

◆本展の見どころ

- ・「TCAA 2022-2024」受賞記念展での展示も記憶に新しい、サエボーグによるラテックス製の着ぐるみ「サエドッグ」のパフォーマンスを、仮設のステージを設けて常時公開します。
- ・戦争と性暴力のリサーチにもとづく飯山由貴による新作インスタレーションでは、茜染めをした布を用いて展示空間を構成するほか、登壇者を招いてのトークイベントを開催します。
- ・「規制された家(庭)」の問題を問いつける繁殖する庭プロジェクト(小宮りさ麻吏奈+鈴木千尋)は、映画『繁殖する庭』を映像インスタレーションとして再構成して展示します。
- ・多種多様な職業・肩書きが並ぶ 38 組 39 名の本学卒業生の“今”をインタビュー映像と写真を通して紹介します。

女子美術大学を卒業した参加者で構成された本展は、今日のジェンダーのあり方はもちろん、社会や日常にあるさまざまな問題に対して、それぞれの立場で実践的かつ創造的に問いかけ向き合うものでもあり、本学の歴史に立ち返りながら、現在・未来に向けてのメッセージを繋いでいく内容となるでしょう。



◆イベント詳細

飯山由貴による登壇者を招いてのトークイベントに関する情報は、特設サイトにて後日公開いたします。

<https://www.joshibi.ac.jp/joshibi-news/event/3501>



◆インタビュー映像配信

飯山由貴、サエボーグ、繁殖する庭プロジェクト(小宮りさ麻吏奈+鈴木千尋)のインタビュー映像「この世界に生きること」(撮影:宮澤響)を女子美クリエイティブ・ラボラトリーのYouTubeチャンネルにて配信します。(2025年10月下旬に配信予定)

<https://www.youtube.com/@joshibi-lab.4228/videos>



◆女子美術大学 125 周年について

2025年10月、女子美術大学は創立125周年を迎えます。

本学は「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」を目指して、美術教育を行う学校として1900年に創立しました。以後、今日までの125年にわたる長い歴史の間に、画壇・デザイン界をはじめ、教育界などあらゆる分野に優れた人材を輩出するとともに、社会で自立できる女性たちを送り出してきました。現代においても、知性と感性と技術を併せもち、美術の専門を活かして社会的、経済的に自立できる人材の育成を行っています。

◆企画・協力・制作

企画:「女子美術大学創立125周年記念展 この世界に生きること」実行委員会

事業責任者:清水 美三子

ディレクター:栗田 大輔、福士 朋子

キュレーター:倉茂 なつ子

協力:女子美クリエイティブ・ラボラトリー

撮影(3組4名出品作家インタビュー映像):宮澤 響

グラフィックデザイナー:畑 ユリエ

◆本展に関するプレス・取材について条件・注意点

- ・個人ブログ、SNS(Instagram)、YouTube などにおける「収益を目的とした SNS やブログ等への無断使用」は禁止とさせていただきます。
- ・記事掲載の際は、原則、下記記載の「プレス問い合わせ」にご連絡ください。問い合わせなしでの広報用画像の無断使用は禁止とさせていただきます。
- ・広報用画像は、本プレスリリースに掲載している画像がメインとなります(一部更新あり)。
- ・問い合わせの際は「媒体名・氏名・連絡先・取材もしくは掲載の目的・締切」をお知らせいただくとスムーズです。

◆プレス問い合わせ

学校法人女子美術大学 総務企画部 広報グループ

〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台 1900

Tel. 042-778-6123

Mail. 125exhibition@onlineac.joshibi.jp